

先生と生徒の距離が近く、質問や相談がいつでもできる

K.I.

獨協医科大学 医学部 医学科 進学
私立 リリーベール小学校 卒業

私は病院にお世話になる事が多く、小学校の頃からお医者さんの仕事に興味を持っていました。中学校に入学した時も将来はお医者さんがいいかな～くらいに思っていたのですが、中学1年の時にあまりにも部活が楽しくて勉強のやる気が無くなってしまい、お医者さんになる事を一度諦めました。そうすると一気に勉強のモチベーションは下がり、中学1年の最初の定期テストで20位くらいだった順位が最後の定期テストでは学年で74位にまで下がってしまいました。ここで初めて今までの自分のだらしなさに気づき、中学2年の定期テストでは前の順位を取り戻すぞ！と思いながら春休みもゴールデンウィークも必死になって勉強した事を今でも鮮明に覚えています。そして中学2年生の第1回定期テストで11位を取る事が出来たのです！もちろん勉強で大切な事は順位ではないし、大学受験は全国大会なので校内の順位なんてあてになりません。ですが、私の学年は毎定期テストごとに50位まで順位を出してくれていて、それが生徒全員のモチベーションになり、学年全体のやる気をアップしてくれたことは間違いありません。最初の頃は嫌だと思う人もいるかもしれませんが、卒業した今、負けず嫌いな性格の私にとってあの順位表がどれだけ重要だったかよくわかります。いつも順位表を見て自分より少し上にいる友達と一人で勝手に競争していました。話は戻りますが、11位を取る事が出来てから私のモチベーションはどんどん上がっていき、暗記科目を授業の最後に全部復習する事、定期テストの2週間前からは部活の後に3時間、1週間前からは部活が無くなるのですぐに家に帰って5時間勉強するというのが習慣になっていきました。すると成績はどんどん伸びていきました。ここでもう1つ私の成績が伸びた明確なポイントがあるので紹介したいと思います。それは勉強机をリビングから自分の部屋に移動したことです。中学1年の頃はテレビを見ながら、家族と話しながら、音楽を聴きながら勉強をしていたのですが、それでは何も頭に入っていませんでした。勉強は全集中することが基本なのです。集中力が続かない人は25分集中して5分休憩するのを繰り返すのも良いらしいですよ！しかし、これはあくまで私の勉強法であって全員に当てはまる事ではありません。6年間あるので、長い時間をかけて自分に合った勉強法を見つけてみて下さい！こんな感じで私はまたお医者さんを目指すことを決め、中学3年から医学コースに入りました。沢山の医療従事者の方の講演を聞かせてもらったり、医師になるために必要な事を教えてもらったりと、なかなか中学生では出来ないような体験をさせてくれたお陰で医師になりたいという気持ちが大きくなっていきました。高校生になってからは、コロナの影響で医学コースの活動が少なくなってしまった時期もありましたが、リモートでの講演会を聞かせてくれたり、医系論文の発表の機会を設けてくれたりしたのでモチベーションが下がることはなかったです。少し落ち着いてからは、医療に関わる様々な職種の方からお話を聞けたり、病院や大学に連れて行ってもらったりして、医者になるという気持ちが強く固くなるばかりでした。これから入学する皆さんは私たちが経験できなかったような色々な体験が出来るようになっていと思うので楽しみにしててください！高校2年の秋くらいからは本格的に受験校を考え始めます。私は受験に関して無知だったのですが、担任の先生や医学コースの先生が模試の成績と照らし合わせながら分かりやすく教えてくれたので安心できました。先生とも家族とも何度も話し合いを重ねながら、受験校が決まったのは高校3年生の6月頃だったと思います。そこからは医学コースの先生が苦手だった数学を徹底して指導してくれて、おすすめしてもらった参考書をひたすら解く、分からないところを質問する、もう1回自分で解く、の繰り返しです。トータルで同じ参考書を「10周」はしたと思います。参考書を使う時、1冊を極めると言われますが本当にそうです。1間でも解けない問題があったら新しい参考書はいらないと思います。解き方を覚えちゃうくらいマスターすることが大事です！受験の1か月前くらいからは面接指導をしてもらいました。実際の過去問をもとに同じ形式の面接を何度も練習させてくれたので受験当日も安心して面接に臨むことができました。それでも人前で話すということはいきなり出来ることではないので、今のうちから自分の考えを言葉にして人に伝える練習をしておくとうれしいと思います！長くなりましたが、勉強に関してはこんな経緯で無事、獨協医科大学医学部医学科に合格することが出来ました。最後まで支えてくれた沢山の先生、家族がいなかったら夢を実現するための第一歩を踏み出せなかったんだなと考えると、感謝

してもしきれません。そして茨中・茨高に入って大好きな先生、友達と出会えたことは一生の思い出になりました。

6年間数えきれないほどの思い出がありますが、何よりも楽しくて夢中になったのは部活動です。中学は小学校の頃から好きだったバスケットをしたかったのでバスケット部に入りました。初めての部活で上下関係を教えてもらって、理不尽なことや辛いことも沢山あったけれど、それも忘れちゃうくらいに優しい先輩やかわいい後輩が来たり、チームスポーツをやっていく中で言いたいことを言い合って時には喧嘩もしながら友達との仲が深まったり、この文章を書いている今も訳のわからないくらい笑いあって楽しかった当時の情景を思い出すと胸が熱くなります。高校もバスケットを続けるつもりだったのですが、中学3年の時の総体で膝を怪我して、2回の手術を受け、1年間走ることもできないままバスケットを続けることもできなくなってしまいました。大好きだったバスケットが出来ないことのショックで毎日泣いていた時もあったのですが、その時の担任の先生や友達が色んなところで助けてくれて本当に周りの人に恵まれて幸せだなと感じたことを覚えています。それから高校に入って何も熱中できるものが見つからずに落ち込んでいた私を救ってくれたのは陸上部のマネージャーをやっている友達でした。陸上に興味はなかったので見学だけのつもりで行ったのですが、部活の雰囲気と一人ひとりが自分の種目に打ち込んでいる姿に惹かれ、マネージャーをやってみることにしたのです。そして秋頃、大会で頑張っている先輩や仲間を見てサポートしているだけの自分に我慢できなくなってしまい、中長距離にチャレンジすることに決めました。1年間運動できなかった私にとって中長距離の練習は想像を絶する辛さでしたが、仲間と一緒に走る事やタイムが伸びていく事が嬉しくて毎日夢中になって練習していました。そのうちに陸上部のみんなともとても仲良くなって、今では一緒に旅行に行く仲です！きついメニューだったけど部活が毎日の一番の楽しみでした。高校2年からは大会にも出させてもらえるようになって、さらにモチベーションが上がっていきました。結果を残すことはできなかったけど、バスケットとはまた違う個人競技で自分の限界まで挑戦し、高めていくという経験が出来て心も大きく成長できたと思います。ここには書ききれないくらいまだまだ沢山の思い出があって、どれも大事な宝物です。みなさんが失敗をしながらも色々なことに挑戦して、この茨中・茨高で一回り大きく成長できることを願っています。

茨中・茨高の良いところは、まず、先生と生徒の距離が近くて授業で分からないところや悩み相談がいつでもできる環境があるところです。私もテスト期間は毎日のように職員室に行って先生に分からないところを教えてもらっていました。高校1年の時に、「あなたはこの問題が苦手だけどここまではいつも出来てるんだからあと一歩だよ！」と言ってくれた先生がいて、私の普段のテストや小テストの、間違えやすいところまでちゃんと把握してくれていることを知ったときは驚いたし、とても嬉しかったです。受験期にはもう、「ここでつまづいたでしょ？」というくらい私の苦手なポイントを分かってくれていました。そのように教えてくれることで自分でもそこを意識して問題を解くようになるし、どこが分からないのかが分かるようになったので勉強しやすかったです。また、辛い事情で悩んでいる友達は、保健室の先生が話を聞いてくれて、週に2回来ているカウンセラーの先生にも相談できて助かったと話していました。もう1つは、生徒が自然と勉強できる環境です。中学生の時から定期テストの1週間前からは部活がなく、全員が試験に向けての勉強をするので、自習室はいっぱいになり、自習室で勉強を頑張っている先輩や友達を見ると、自分もやらなきゃという気持ちになります。また、わからない部分があれば先生が職員室にいますので、すぐに質問しに行けばそこで立ち止まらずに済むのです！夜19時まで開いているので放課後たっぷり勉強できます。他にもたくさん書ききれないほど良い所があります。なにより私は本当に茨中・茨高に入学して良かったと思っているし卒業してもまたすぐ戻ってきたいなと思っています。色々な人との出会いを大切に6年間全力で楽しんでほしいです。一期一会です！

大学に行ったら、勉強はもちろんですが今しかできない色々な経験をして人として素敵で立派な大人になりたいです。何科になるのかはまだ決まっていますが、どこを選んだとしても患者さんに寄り添える優しいお医者さんになりたいと思います。